

2025 年度を振り返って

一般社団法人ひびき青年会議所

第 54 代 理事長 竹内 和久

1. はじめに

2025 年度、私は「できない理由より、どうすればできるか考えよう」という信念を掲げ、「Have a Dream ~無限の可能性~」というスローガンのもと一年間邁進してまいりました。各委員長をはじめとするメンバー一人ひとりが、この言葉を胸に多くの挑戦を積み重ねてくれたことに心より感謝申し上げます。本年度は例年にない 4 つの報告議案を抱える多忙な日々でしたが、春の花見事業から締めくりとなる別府での交流事業まで、メンバー同士の絆を最大限に深めることができた一年であったと確信しております。

2. 組織運営と会員拡大

本年度は「目的意識の共有」を重視し、例年以上にフローチャートの作成を徹底しました。これにより、メンバー全員が事業の目的を明確に理解し、一丸となって取り組むことができました。また、長年の課題であった例会の出席率向上にも真摯に取り組み、目に見える成果を上げることができました。さらに、青年会議所活動の根幹である「会員拡大」においては、全メンバーによる一丸となった活動の結果、非常に前向きで志の高い新入会員を迎えることができました。次代の「ひびき青年会議所」を力強く牽引してくれる同志の入会は、私にとっても大きな喜びです。

3. 青少年育成事業の挑戦

青少年育成委員会では、新たな試みとして「地域の方々からの寄付」を募る手法に挑戦しました。その結果、岡垣町の児童養護施設の子どもたちを 1 泊 2 日の行程で大阪万博へと招待することができました。「地域を巻き込む」という委員長の決断とメンバーの行動力が、子どもたちに「大きな夢」を抱いてもらうきっかけを作りました。事業後の報告書に記された子どもたちの成長した姿は、まさに私たちが目指した目的を達成した証であり、深く感動いたしました。

4. 地域開発と防災への取り組み

理事長所信に掲げた「防災事業への注力」と「地域に必要とされる団体」の実現に向け、5 月の公開例会では、既存の防災協定を再確認し、有事の際の行動指針を学び直しました。残念ながら昨年は豪雨災害に見舞われましたが、例会での学びを活かし、1 市 4 町(遠賀郡・中間市)からの要請に迅速に対応することができました。実際に現場へ赴き、ボランティア活動を通じて被災された方々の笑顔に触れ

た経験は、我々にとっても「地域における JC の存在意義」を再認識する貴重な機会となりました。また、地域開発事業では、遠賀郡のお米にフォーカスした「どんぶりグランプリ」を開催しました。多くの飲食店様や遠賀町をはじめとする行政の皆様にご協力いただき、当日は想定を上回る賑わいを見せました。「ぜひもう一度開催してほしい」という地域の方々の力強い声は、私たちが目指した「地域に必要とされる団体」へと一歩近づけた証であると感じております。

5. 結びに

この一年間、理事長という職を通じて地域の方々やメンバーからかけがえのない思い出と楽しい時間をプレゼントしていただきました。青年会議所は「単年度制」です。私が得た経験と実績を次代へ繋ぎ、2026 年度、第 55 代理事長寺崎竜二君へとバトンを託します。今後も、一般社団法人ひびき青年会議所がさらなる発展を遂げ、地域を盛り上げ続ける存在であることを心より祈念し、私の 2025 年度事業報告とさせていただきます。一年間本当にありがとうございました。

広報会員交流委員会

1. 基本方針

1. 設置背景	<p>新入会員が入会しても既存会員との交流不足や活動に対する不安感から早期退会するケースが見られ、組織として新入会員を受け入れる体制が整っておらず、また活動の情報発信が不十分なため、ひびき JC のブランドイメージが曖昧になり、組織全体のアピールが弱まっています。</p>
2. 設置目的	<p>馴染めていない会員の活動への参加意欲向上とともに、新入会員の定着率を高め退会者を減らし活気ある LOM づくりを行う必要があり、会員同士の強いネットワークが構築されることにより生み出される活動の広報には一貫性と強さを持たせ、地域との連携を深める必要があります。</p>
3. 事業概要	<p>1. 事業概要：広報活動における地方自治体との連携に関する事項 ひびき JC の活動、運動をより広く知ってもらうため、地方自治体と連携した広報活動を行うことで、地域に必要とされる魅力ある組織となります。</p> <p>2. 事業概要：HP・SNS の作成及び運営・管理に関する事項 LOM の魅力を発信するために、HP・SNS の内容を正確に発信するとともに、内容を充実させることで、地域からより必要とされるひびき JC のブランディング向上を図ります。</p> <p>3. 事業概要：会員交流事業に関する事項 会員同士のつながりを深めるため、協力し合える環境の機会を提供することで、共通の意識が構築され、ひびき JC の魅力を一人ひとりが発信する組織となります。</p> <p>4. 事業概要：出向に関する事項 委員会メンバーに出向してもらうために、自らが積極的に出向し、責任を持って向き合うことで、ひびき JC を担う人財を育成していきます。</p> <p>5. 事業概要：各種大会への参加に関する事項 委員会メンバーに各種大会に参加してもらうために、自らが積極的に参加し、責任を持って向き合うことで、ひびき JC を担う人財を育成していきます。</p> <p>6. 事業概要：会員拡大に関する事項 入会候補者を入会につなげるために、委員会メンバーと連携して候補者の情報を収集し、それを会員拡大委員会と共有し、全メンバーが候補者にアプローチできる体制を整えることで、組織全体で会員数を増やすことを目指します。</p> <p>7. 事業概要：その他広報会員交流会に関する事項 迅速に対応します。</p> <p>8. 事業概要：各委員会との連携</p>

	会員交流事業への参加率向上のために、各委員会と連携をとり、他の委員会に、メンバーとともに参加し交流することで、委員会の垣根を超えた絆を深めます。
4. 委員会の姿	委員会メンバーは1年間の様々な交流をとおし、メンバー同士がつながりを深め、JC活動、運動の中で、JCの魅力を伝えるとともに、一人ひとりが次世代のLOMを担うメンバーへと成長し、夢を追い求め、無限の可能性を秘めた人財となり持続可能な地域を実現します。

2. 委員会構成

委員長	金城 一聖 君
副委員長	白坂 綾羽 君 福岡ブロック協議会アカデミー第1委員会 委員出向
委員	石井 碧 君
委員	石塚 隆聖 君
委員	梶栗 裕太 君
委員	樋口 享太郎 君

(委員 50 音順)

3. 事業報告

事業別内容(方法・手段・評価・反省)

(1) 広報活動における地方自治体との連携に関する事項

(方法・手段)

ひびき JC の活動、運動をより広く知ってもらうため、地方自治体と連携した広報活動を行うことで、地域に必要とされる魅力ある組織となります。

(評価・反省)

年当初、活動エリアの市役所の広報担当への挨拶し連携し広報活動を行う体制はできました。ですが、それ以降の連携を怠った為、機能しなかったのが反省点です。

(2) HP・SNS の作成及び運営・管理に関する事項

(方法・手段)

LOM の魅力を発信するために、HP・SNS の内容を正確に発信するとともに、内容を充実させることで、地域からより必要とされるひびき JC のブランディング向上を図ります。

(評価・反省)

HP・SNS の更新は専務チェックを行い内容、正確さにこだわり発信できたことは評価できる点です。ですが、当初予定していた更新のスピード感には反省が残ります。

(3) 会員交流事業に関する事項

(方法・手段)

会員同士のつながりを深めるため、協力し合える環境の機会を提供することで、共通の意識が構築され、ひびき JC の魅力を一人ひとりが発信する組織となります。

(評価・反省)

年間 4 回の会員交流事業を実施し、メンバー同士が互いを理解し合う機会を創出できたことで、一定の組織力向上に寄与できた一年であったと考えます。一方で、事業ごとの参加率が十分に確保できず、交流の輪が限定的なものになってしまったことは大きな反省点です。

(4) 出向に関する事項

(方法・手段)

委員会メンバーに出向してもらうために、自らが積極的に出向し、責任を持って向き合うことで、ひびき JC を担う人財を育成していきます。

(評価・反省)

副委員長である、白坂君が福岡ブロックアカデミーに背中を押し、出向してくれたことは評価したい点です。ですが、本来私自身が出向する予定ではありましたが、できなかったことが反省点です。

(5) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

委員会メンバーに各種大会に参加してもらうために、自らが積極的に参加し、責任を持って向き合うことで、ひびき JC を担う人財を育成していきます。

(評価・反省)

各種大会には、委員会メンバーともに参加してもらうために、私自身がほとんどの各種大会に参加し、委員会メンバーが参加できなかった各種大会の魅力を伝えられたことは評価できます。ですが、参加してもらうまでの動員に至らなかったことは反省が残ります。

(6) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

入会候補者を入会につなげるために、委員会メンバーと連携して候補者の情報を収集し、それを会員拡大委員会と共有し、全メンバーが候補者にアプローチできる体制を整えることで、組織全体で会員数を増やすことを目指します。

(評価・反省)

個人的に拡大にコミットしようと思い、拡大委員長と共に何度かアタックしにいったのは評価できる点です。オブザーバーを 1 名しかあげることができず、入会にも導けなかったのが反省点です。

(7) その他広報会員交流会に関する事項

(方法・手段)

迅速に対応します。

(評価・反省)

その他広報会員交流に関する事項がありませんでした。

(8) 各委員会との連携

(方法・手段)

会員交流事業への参加率向上のために、各委員会と連携をとり、他の委員会に、メンバーとともに参加し交流することで、委員会の垣根を超えた絆を深めます。

(評価・反省)

会員交流事業の動員方法に各委員会にメンバーとともに直接参加し動員と記し、各委員会の委員長と連携をとり参加し動員できたことは評価できます。ですが、参加してくれると言っていたメンバーが当日になってのキャンセルや何日か前から連絡が付かなくなるなど参加率が下がってしまい、全メンバーに満遍なく交流機会を提供できなかったことが反省点です。

4. 総評

広報会員交流委員会は本年度、広報会員交流委員会では、「ひびき JC の魅力を広く発信し、会員同士の絆を深める」ことを目的に活動を展開してまいりました。広報面では、HP・SNS の発信内容を整備し、事業の様子やメッセージ性のある情報を継続的に発信したことで、対外的な認知度の向上に貢献しました。また、会員交流事業を年間 4 回実施し、参加者間では交流が深まり、委員会内外での連携も円滑になるなど、組織力向上に寄与する結果となりました。一方で、交流事業の参加率にはばらつきがあり、全メンバーに満遍なく交流機会を提供するという点では課題も残りました。本年度の活動を通じ、広報と交流はどちらも組織を強くするために欠かせない要素であると改めて実感しました。来年度以降も、これまでの経験を活かし、より効果的な発信と活発な交流を通じて、地域とメンバーに必要とされるひびき JC を築いていけるよう努めてまいります。

月別事業内容及決算

(単位：
円)

月	事業内容	予 算	決 算	事業収入	摘 要
1月					
2月					
3月	3月度会員交流事業	¥0	¥0		
4月					
5月					
6月					
7月	7月度会員交流事業	¥0	¥0		
8月					
9月	9月度会員交流事業	¥0	¥0		
10月					
11月	11月度会員交流事業	¥0	¥0		
12月					
合計		¥0	¥0	¥0	/
決算	事業予算 + 事業収入 - 決算 = 残金				
				¥0	
備考					

総務委員会

1. 基本方針

1. 設置背景	<p>私たち総務委員会は、事業全体を把握して、LOMの中核となり、事業一つひとつを支えていくことはもちろん、定款を遵守に加えて意見交換と実りある会議を実現し、より一層地域社会から信頼され、必要とされるLOMになれる可能性を秘めています。</p>
2. 設置目的	<p>実りある会議の実現に向けて、正確な資料の作成から、情報やノウハウの共有、打ち合わせやリハーサル、各種会議の資料を規則に基づき作成するとともに周到な準備を行い、事前配信の徹底が運営の基盤として必要です。</p>
3. 事業概要	<p>1. 事業概要：総会の開催に関する事項</p> <p>総会の重要性を理解してもらうために、各委員長と連携して委員会メンバーに伝えてもらうことで、自分の意志をもって参加してもらい、事業全体の参加意識の向上につなげます。</p> <p>2. 事業概要：選考委員会選挙の開催に関する事項</p> <p>公正な選挙を行うために、わかりやすく趣旨の説明を行い、選考委員会の趣旨を理解して次年度の人事を重要なものと捉えてもらいLOMメンバーに参加してもらうことで、より良い組織にします。</p> <p>3. 事業概要：予算会議での誤字・脱字に関する事項</p> <p>効率的な理事会を行うために、誤字脱字やリンクを確認し指摘して精査してもらい、各委員長たちの修正を終えるまで専務グループでサポートをすることで、議案作成に寄与します。</p> <p>4. 事業概要：議事録の作成及び運営に関する事項</p> <p>正確な議事録を作成するとともに円滑な運営に寄与するために、総務委員会で役割分担して常任理事会までには、議事録作成を行い、上長と連携して事前配信することで会議の内容が把握できるように議案作成の一助するとともに組織力の強化に寄与します。</p> <p>5. 事業概要：各種会議運営に関する事項</p> <p>各種会議運営を円滑かつ効率よく行うために、総務委員会で協力して事前の委員会にてスケジュールを組み会場の把握し、設営と会場準備を事前に行うことにより効率の良い会議につながります。</p> <p>6. 事業概要：出向に関する事項</p> <p>委員会メンバーの出向意識を高めるために、自身が出向経験で学んだ知識やJCの魅力委員会全員に伝えていくことで、JCにより興味をもってもら</p>

	います。
	7. 事業概要：各種大会への参加に関する事項
	各種大会への参加をしてもらうために、委員会で積極的に動員し、参加につながるよう関心を抱かせることでメンバーの参加意欲を向上します。
	8. 事業概要：会員拡大に関する事項
	オブザーバーを積極的に探すために、委員会で積極的にオブザーバーについて話し合い、委員会メンバーの意識を高めることで、会員の拡大につながります。
	9. 事業概要：その他総務に関する事項
	迅速に対応します。
	10. 事業概要：褒賞に関する事項
	今後のメンバーの意識向上のために、事前に褒賞があることを周知することで意識して参加してもらうとともに厳正かつ公正に褒賞者を決定することで、会員の資質向上を目指します。
4. 委員会の姿	委員会メンバーは、一人ひとり JG の一員としての自覚が芽生え、三信条により得た知識や技術を通じて、かけがえのない仲間となり、質の高い青年経済人へと成長し、責任を持って未来のひびき JG を牽引していく人材になります。

2. 委員会構成

委員長	田染 智絵君	
副委員長	藤高 太郎君	福岡ブロック協議会アカデミー第1委員会 委員出向
委員	米山 悟史君	
(委員 50 音順)		

3. 事業報告

事業別内容(方法・手段・評価・反省)

(1) 総会の開催に関する事項

(方法・手段)

総会の重要性を理解してもらうために、各委員長と連携して委員会メンバーに伝えてもらうことで、自分の意志をもって参加してもらい、事業全体の参加意識の向上につなげます。

(評価・反省)

年間を通じてメンバーから問題なく決議をいただくことができましたので、総会の開催については評価できる点と考えます。しかし、出席率に関しては年間を通して悪かったため、全体の参

加意識向上につなげることができなかつたことが反省点です。総会の意義を各委員会に把握してもらい内容を理解してもらうことで出席の必要性につなげられたのでは、ないかと思いたすので必ず各総会の内容と何のために総会が行われるのかをメンバーに周知してください。また総会の内容の理解度を検証するためにアンケートを行うなどして工夫をしてください。

(2) 選考委員会選挙の開催に関する事項

(方法・手段)

公正な選挙を行うために、わかりやすく趣旨の説明を行い、選考委員会の趣旨を理解して次年度の人事を重要なものと捉えてもらいLOMメンバーに参加してもらうことで、より良い組織にします。

(評価・反省)

投票率が92.5%という結果となり、100%には届かなかつたものの積極的な期日前投票の案内ができたことは評価できる点と考えます。集計時間に行ったひびきJCゲームについてもメンバーから好評をいただきましたので評価できる点と考えます。しかし、当日の出席率につなげることができなかつたことは反省点です。

(3) 予算会議での誤字・脱字に関する事項

(方法・手段)

効率的な理事会を行うために、誤字脱字やリンクを確認し指摘して精査してもらい、各委員長たちの修正を終えるまで専務グループでサポートをすることで、議案作成に寄与します。

(評価・反省)

予算会議については、専務グループで役割を決め連携して行うことができました。各委員長が修正を終えるまで寄り添って議案作成に寄与できたことは評価できる点と考えます。しかし、誤字脱字、予算書について理事会で指摘されることが多々ありましたので、チェックが甘かつたことは反省点です。

(4) 議事録の作成及び運営に関する事項

(方法・手段)

正確な議事録を作成するとともに円滑な運営に寄与するために、総務委員会で役割分担して常任理事会までには、議事録作成を行い、上長と連携して事前配信することで会議の内容が把握できるように議案作成の一助するとともに組織力の強化に寄与します。

(評価・反省)

総務委員会で役割分担して議事録作成に取り組みました。上長と連携して事前配信することで会議の内容が把握できるように議案作成の一助できたと思いたす。しかし、常任理事会までに議事録作成を行って配信をすることが遅れていたためスケジュールを把握して議事録に取り組むべきだつたことが反省点です。

(5) 各種会議運営に関する事項

(方法・手段)

各種会議運営を円滑かつ効率よく行うために、総務委員会で協力して事前の委員会にてスケジュールを組み会場を把握し、設営と会場準備を事前に行うことにより効率の良い会議につながります。

(評価・反省)

今年度の理事会は1市4町の会議室を借りて行い会場予約や準備など専務グループで連携して行うことができました。正副理事長会議、常任理事会、予算会議についても早めの設営を行い円滑な会議運営ができたことは評価できる点と考えます。しかし、理事会当日演台を忘れて、当日の案内が間違ったりしたことは反省すべき点と考えます。

(6) 出向に関する事項

(方法・手段)

委員会メンバーの出向意識を高めるために、自身が出向経験で学んだ知識やJCの魅力委員会全員に伝えていくことで、JCにより興味をもってもらいます。

(評価・反省)

副委員長が出向してくれましたので、LOM内では感じられないJCの魅力に触れることができ、よりJCに興味をもってもらえたと思います。しかし、自身が出向できなかったことが反省点です。次年度以降機会があれば前向きに出向したいと思います。

(7) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

各種大会への参加をしてもらうために、委員会で積極的に動員し、参加につながるよう関心を抱かせることでメンバーの参加意欲を向上します。

(評価・反省)

委員会メンバーが各種大会に参加し楽しんでいる姿を見ることができたため、大会でしか味わえない魅力を感じてもらえたと思います。しかし、すべての大会に参加することが叶わず成長の機会を逃した点は反省が残ります。

(8) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

オブザーバーを積極的に探すために、委員会で積極的にオブザーバーについて話し合い、委員会メンバーの意識を高めることで、会員の拡大につながります。

(評価・反省)

新入会員とは積極的に関わりフォローアップの一助になれたと考えます。委員会を巻き込み、オ

ブザーパーに声をかけるかという具体的な行動プランの設定が不十分だったのが反省すべき点です。

(9) その他総務に関する事項

(方法・手段)

迅速に対応します。

(評価・反省)

その他総務に関する事項はありませんでした。

(10) 褒賞に関する事項

(方法・手段)

今後のメンバーの意識向上のために、事前に褒賞があることを周知することで意識して参加してもらおうとともに厳正かつ公正に褒賞者を決定することで、会員の資質向上を目指します。

(評価・反省)

厳正かつ公正に褒賞者を決定し 3 名の対象者を表彰できたことは今後の活躍につながると思います。しかし、褒賞について事前に周知することができておらず、対内誌や全体 LINE で宣伝して定着させる必要があると感じました。

4. 総評

今年の活動は、総務委員会として組織の中核を担う運営業務でした。選考委員会選挙での高い投票率や、円滑な会議運営に向けて委員会で行った会議や総会での設営は、評価に値する目に見えない努力の結晶だと思います。しかしながら、「参加意識の向上」や「文書チェックの徹底」といった細部への配慮が、年間を通しての大きな課題として残りました。特に、総会の意義がメンバーに十分に伝わりきらなかった点や、予算会議での誤字脱字の指摘は非常にもったいない反省点です。総じて、「やり遂げた評価点」と「質を高めるための反省点」が明確に出た一年であり、この反省を次年度の具体的な改善策に繋がれば、組織はさらに盤石になると確信しています。一年間ありがとうございました。

月別事業内容及決算

(単位：
円)

月	事業内容	予 算	決 算	事業収入	摘 要
1月	1 月度例会 臨時総会	¥30,000	¥27,275	¥0	案内委任 状 会場費
2月					
3月	3 月度通常 総会	¥10,000	¥9,955	¥0	委任状 会場費
4月					
5月					
6月	6 月度選考 委員会選 挙	¥15,000	¥14,394	¥0	会場費
7月		¥0			
8月	8 月度例会 臨時総会	¥30,000	¥26,890	¥0	委任状 会場費
9月					
10月					
11月					
12月	褒賞	¥30,000	¥9,718	¥0	筒 褒賞 品
合計		¥115,000	¥88,232		
決算	事業予算 + 事業収入 - 決算 = 残金				
	¥115,000	¥0	¥88,232	¥26,768	
備考					

青少年育成委員会

1. 基本方針

1. 設置背景	現代社会を生きる青少年は、私たちが青少年だった時とは異なり、時代の変化とともに、学校生活や日常生活と、大きく変化しているが、青少年自身は今も変わらず夢と希望に満ち溢れており、リーダーとしての可能性を秘めています。
2. 設置目的	私たちが夢と希望に満ち溢れた青少年の可能性を切り拓くには、挑戦する気持ち、諦めない気持ちの大切さを伝えると同時に、青少年事業を通じて、私たちが JAYCEE としてのあるべき姿を見せ、青少年と一緒に目的達成に向かって挑戦する場が必要です。
3. 事業概要	<p>1. 事業概要： 青少年育成事業の企画運営に関する事項</p> <p>夢と希望に満ち溢れた青少年の素質を開花させるために、青少年育成委員会とメンバーと一緒に高い目標に向かってチャレンジすることで、参加した青少年たちは、この事業をきっかけに将来の夢を叶える第一歩になります。</p> <p>2. 事業概要： わんぱく相撲の引率に関する事項</p> <p>1市4町の少年力士が、わんぱく相撲全国大会で実力を最大限に発揮するために、過去の引継ぎを確実に行き、少年力士が試合に集中できる環境をつくることで、青少年の記憶に残る大会にします。</p> <p>3. 事業概要： シニア合同例会の開催に関する事項</p> <p>LOMのメンバーがシニアの先輩方に感謝の気持ちを伝えるために、日々の事業報告や次年度の報告をスムーズに行うことで、シニアの先輩方に後輩としての責務を果たします。</p> <p>4. 事業概要： 出向に関する事項</p> <p>メンバーに出向先で様々な人とのつながりをもってもらい、社業の発展や自己成長のために、自身の経験を伝え、多くのメンバーに出向してもらうことで、ひびきJCの今後の発展につながります。</p> <p>5. 事業概要： 各種大会への参加に関する事項</p> <p>多くのメンバーで各種大会に参加するために、毎月の委員会で年間スケジュールを共有し、各種大会への議題をあげ、参加を促すことで、各種大会への出席率が上がるとともに、LOMでのコミュニケーションも自然に増えJC活動への熱が高まります。</p> <p>6. 事業概要： 会員拡大に関する事項</p> <p>会員拡大を積極的に行うために、委員会で積極的にオブザーバーを呼び、オブザーバーが委員会メンバーと関わることで、JCに興味をもってもらうとも</p>

	に、様々な他業種のメンバーや普段接することのない年代と交流を深め、自身の資質向上とひびき JC の発展につなげることができます。
	7. 事業概要： その他青少年に関する事項
	迅速に対応します。
4. 委員会の姿	本年度のスローガンである、Have a Dream 無限の可能性の達成を目標に一年間突き進んだメンバーは、己の殻を破り、去年の自分を超越ことができ、信頼できる仲間が増え、仲間と一緒に自己成長できるようにと確信しています。

2. 委員会構成

青少年育成委員会	
委員長	松井 康君
副委員長	田中 菜乃香君 福岡ブロック協議会アカデミー第2委員会 委員出向
委員	上田 将貴君
委員	黒木 五十鈴君 九州地区協議会広報委員会 委員出向
委員	手島 拓哉君
委員	野上 賢吾君
	(委員 50 音順)

3. 事業報告

事業別内容(方法・手段・評価・反省)

(1) 青少年育成事業の企画運営に関する事項

(方法・手段)

夢と希望に満ち溢れた青少年の素質を開花させるために、青少年育成委員会とメンバーが一緒に高い目標に向かってチャレンジすることで、参加した青少年たちは、この事業をきっかけに将来の夢を叶える第一歩になります。

(評価・反省)

青少年事業では、将来の可能性を広げようを目的に事業を行いました。報恩母の家の子供たちを大阪万博に連れていき、将来の夢の選択肢を広げるために、色々な経験をさせることができたことと確信しています。ただ、初めての協賛を募っての事業で、実施までのスケジュールの段取りが上手くできなかったのが一番の反省です。

(2) わんぱく相撲の引率に関する事項(方法・手段)

1市4町の少年力士が、わんぱく相撲全国大会で実力を最大限に発揮するために、過去の引継ぎを確実にし、少年力士が試合に集中できる環境をつくることで、青少年の記憶に残る大会にします。

(評価・反省)

わんぱく相撲の引率については、問題なく遠賀川部屋と連携して上手く行えたと思います。当日全国大会では、子供が携帯を電車で忘れるというアクシデントが起きましたが、迅速に対応して問題なく行えました。

(3) シニア合同例会の開催に関する事項

(方法・手段)

LOMのメンバーがシニアの先輩方に感謝の気持ちを伝えるために、日々の事業報告や次年度の報告をスムーズに行うことで、シニアの先輩方に後輩としての責務を果たします。

(評価・反省)

シニアの先輩方と親睦を深め感謝を伝えようを目的に行いました。今年はシンプルに行いましたが、メンバーとシニアの先輩方と名刺を交換する場面やいろいろな話をしている場面が多く見受けられました。また、全員で目録贈呈とお出迎えができたので、感謝を伝えることもできたと確信しています。

(4) 出向に関する事項

(方法・手段)

メンバーに出向先で様々な人とのつながりをもってもらい、社業の発展や自己成長のために、自身の経験を伝え、多くのメンバーに出向してもらうことで、ひびきJCの今後の発展につながります。

(評価・反省)

委員会メンバーからは1名出向をしていただき、LOMとは違った経験の場を設けることができました。ただ、自分の経験を伝えることができなかったことに反省が残ります。

(5) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

多くのメンバーで各種大会に参加するために、毎月の委員会で年間スケジュールを共有し、各種大会への議題をあげ参加を促すことで、各種大会への出席率が上がるとともに、LOMでのコミュニケーションも自然に増えJC活動への熱が高まります。

(評価・反省)

私自身、様々な各種大会に参加することができました。委員会メンバーを各種大会に参加させることができず、動員については反省が残ります。

(6) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

会員拡大を積極的に行うために、委員会で積極的にオブザーバーを呼び、オブザーバーが委員会

メンバーと関わることで、JCに興味をもってもらうとともに、様々な他業種のメンバーや普段接することのない年代と交流を深め自身の資質向上とひびきJCの発展につなげることができま

す。

(評価・反省)
拡大については何名かオブザーバーを例会に連れて行くことができました。ただ、入会につなげることができなかつたことに反省が残ります。オブザーバーを見つけるというアンテナを常に張っていたことは良かったと思います。

4. 総評

この1年間、青少年事業を通じて活動してきましたが、振り返ると最も大きな反省点は、委員会の運営が思うようにできなかったことです。委員長として、委員会メンバー一人ひとりの意見や気持ちにもっと寄り添い、モチベーションを高めながら活動を進めるべきだったと痛感しています。特に青少年事業やシニア合同例会の際には、委員会メンバーの出席率が低く、全体としての団結力を十分に高めることができませんでした。結果として、委員会全体で一体感を持って事業に取り組むという理想には届かず、個々の力を十分に発揮できないまま1年間が過ぎてしまったことを残念に思っています。しかし、その中でも多くの気づきや学びがありました。自分自身のリーダーシップのあり方、メンバーとのコミュニケーションの重要性、そして委員会をまとめるために必要な計画性や柔軟性など、課題を通して貴重な経験を得ることができました。この経験を無駄にせず、来年度は今回の反省を踏まえて、より積極的にメンバーとの関係を築き、意見を聞きながら協働できる委員会運営を目指したいと思います。

月別事業内容及決算

(単位：円)

月	事業内容	予 算	決算	事業収入	摘 要
1月					
2月					
3月					
4月					
5月					
6月					
7月					
8月	ひびきっず！～万博 合宿～	¥250,000	¥576,917	¥330,000	事業収入企業協賛 金
9月	9月度シニア合同例 会	¥70,000	¥2,200		横断幕印刷費
10月					
11月					
12月					
合計		¥320,000	¥579,117	¥330,000	
決算	事業予算 + 事業収入 - 決算 = 残金				
	¥320,000	¥330,000	¥579,117	¥70,883	
備考					

地域開発委員会

1. 基本方針

1. 設置背景	近年、様々な自然災害が増加しており、私たち地域のシンボルである遠賀川も氾濫する恐れがある中で、地域住民が安心して暮らせるように考えていくことが大切であり、また、秘められた地域の魅力もあり、地元住民からより愛される地域になる可能性を秘めています。
2. 設置目的	我々メンバーが遠賀川の知識を深め、地域住民の防災意識を高める活動をしていくとともに、地域の魅力を再発見し、発信していくには他団体や地域住民と交流していく必要があります。
3. 事業概要	<p>1. 事業概要： 地域開発事業の企画運営に関する事項</p> <p>地域全体の活性化を図るために、地域の魅力を発見し、その情報を広く発信する活動を企画・実施することで、地域の住民にもっと地元を愛してもらう未来につながります。</p> <p>2. 事業概要： 防災事業(公開例会)の企画運営に関する事項</p> <p>地域のシンボルである一級河川遠賀川の災害リスクと向き合うために、遠賀川の歴史を学び、過去の災害データを調査し、遠賀川の知識を深め、その情報を用いて地域の方々に向け公開例会を計画し、地域団体、住民と協力して広く発信することで、地域全体の防災意識を高めます。</p> <p>3. 事業概要： 地域の行事に関する事項</p> <p>他団体、地域住民との交流を深めるために、1市4町の行政、地域団体、住民と連携し他団体の行事に積極的に参加し、地域住民同士の交流を促進することで、地域全体の課題解決に向けて一体感を高めます。</p> <p>4. 事業概要： 出向に関する事項</p> <p>出向の参加者を募るために、委員長自身が出向し、学んだことを委員会メンバーに共有することで、今後の出向意識を高めます。</p> <p>5. 事業概要： 各種大会への参加に関する事項</p> <p>各種大会の参加者を募るために、委員長自身が積極的に各種大会に参加し、学んだことを委員会メンバーに共有することで、今後の参加意識を高めます。</p> <p>6. 事業概要： 会員拡大に関する事項</p> <p>魅力のあるひびき JC になるために、一人ひとりが JC 活動の中で自身の魅力を磨き、多くの人を惹きつけ、拡大委員会と共に勧誘することで、拡大委員会とオブザーバーの交流を深める機会を作り、日々成長をし続ける魅力あるメンバーの姿を見たオブザーバーが同じ志をもって、入会してくれる環境をつくれます。</p>

	7. 事業概要： その他地域開発に関する事項
	迅速に対応します。
4. 委員会の姿	1年間のJC活動をやり遂げたメンバーは、地域のことを学び、想いを深め、社会貢献をしようとする心を持ち、周りと協力して何かをやり遂げることの喜び、強い気持ちをもって挑戦することの難しさ、ルールを守ることの大切さを身に付け、魅力のある人物へと成長すると確信します。

2. 委員会構成

委員長	山本 輝義	君	福岡ブロック協議会	アカデミー第1委員会	副委員長
副委員長	佐々木 孝	君			
委員	大場 嵩士	君			
委員	大山 真理子	君			
委員	川原 健也	君			
委員	古賀 愛梨	君			
委員	高松 奎太	君			
委員	二村 勇希	君			

(委員 50 音順)

3. 事業報告

事業別内容(方法・手段・評価・反省)

(1) 地域開発事業の企画運営に関する事項

(方法・手段)

地域全体の活性化を図るために、地域の魅力を発見し、その情報を広く発信する活動を企画・実施することで、地域の住民にもっと地元を愛してもらう未来につながります。

(評価・反省)

遠賀町くるま祭り実行委員会と共同開催にて、どんぶりグランプリ feat. 遠賀町のお米夢れんげを開催することができました。当日 2000 名近くの来場者に来ていただき、遠賀町のお米夢れんげを対内外に PR できたと確信しています。初めての委員長で他団体と共催という難しい事業に挑戦しましたが、準備・動員が上手にできず、メンバーに設営などの準備に参加していただいたのにうまく割り振ることができずに迷惑をかけたことは反省が残ります。

(2) 防災事業(公開例会)の企画運営に関する事項

(方法・手段)

地域のシンボルである一級河川遠賀川の災害リスクと向き合うために、遠賀川の歴史を学び、過去の災害データを調査し、遠賀川の知識を深め、その情報を用いて地域の方々に向け公開例会を計画し、地域団体、住民と協力して広く発信することで、地域全体の防災意識を高めます。

(評価・反省)

防災事業を考えるにあたり、2018年に1市4町の社会福祉協議会と広域防災協定を締結していることを知りました。協定を紙から行動へつなげるために、共に事業を開催することで、地域の防災と一緒に考えることができました。また、Fネットの平川様とつながれたことは、今後地域のため、ひびきJCのために大きな財産を残せたものと確信します。しかし、初の事業でFネットの平川様頼みになってしまったことや、当日メンバーに例会の設営などで不備があり迷惑をかけたことについては反省が残ります。

(3) 地域の行事に関する事項

(方法・手段)

他団体、地域住民との交流を深めるために、1市4町の行政、地域団体、住民と連携し他団体の行事に積極的に参加し、地域住民同士の交流を促進することで、地域全体の課題解決に向けて一体感を高めます。

(評価・反省)

2025年から中間市の声かけで、中間市に所属する17の任意団体が招集され「なかま春祭り」が3月に開催されました。ひびきJCの代表として会議から参画し、当日はステージ周りを担当させていただきました。委員長である私はステージにて司会を行い、地域のメンバーはステージ袖にて登壇者のサポートや誘導を行い、地域以外のメンバーには花火の時間帯には混雑が予想された、橋の上の歩行者誘導をしていただきました。1万人規模の事業を経験することができ他団体との交流を活発に行うことができたことで、ともに地域を良くしていける環境を創ることができたと確信しています。しかし、年当初考えていた、各地域のまつりやイベントに全て参加するという目標はスケジュールの調整がうまくできずに参加できない行事があったことは反省が残ります。

(4) 出向に関する事項

(方法・手段)

出向の参加者を募るために、委員長自身が出向し、学んだことを委員会メンバーに共有することで、今後の出向意識を高めます。

(評価・反省)

福岡ブロックアカデミーに出向し、たくさんの仲間ができました。井上副理事長の委員会で、委員長を支えるために皆勤賞を目指し、達成しました。出向の良さを委員会メンバーにも伝えることもでき、来年以降委員会メンバーも出向に対し興味を持ってくれたものと確信しています。アカデミー委員会の中で副委員長を自ら手を挙げて担いをいただきましたが、LOMでの委員会運営

や議案の構築などとのバランスがうまく取れず、役割を全うできなかったことについては反省が残ります。

(5) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

各種大会の参加者を募るために、委員長自身が積極的に各種大会に参加し、学んだことを委員会メンバーに共有することで、今後の参加意識を高めます。

(評価・反省)

委員会メンバーに各種大会の良さを伝えるために、各種大会には積極的に参加しました。LOMメンバーと色々な土地に行き、普段話せない話や、新たな気づきを得ることができ、メンバーに各種大会へ参加することの良さを伝えることはできたと考えております。しかし、伝えることはできても、参加してもらうまでに至らなかったことについては反省が残ります。

(6) 会員拡大に関する事項

(方法・手段)

魅力のあるひびき JC になるために、一人ひとりが JC 活動の中で自身の魅力を磨き、多くの人を惹きつけ、拡大委員会と共に勧誘することで、拡大委員会とオブザーバーの交流を深める機会を作り、日々成長をし続ける魅力あるメンバーの姿を見たオブザーバーが同じ志をもって、入会してくれる環境をつくります。

(評価・反省)

1年間本気で JC と向き合い、活動したことでオブザーバーに対し JC の魅力を伝えられたと確信しています。しかし、入会につなげることができず、会員拡大委員会の力になれなかったことについては、反省が残ります。

(7) その他地域開発に関する事項

(方法・手段)

迅速に対応します

(評価・反省)

5月に防災公開例会を開催したことで、2018年に1市4町の社会福祉協議会と締結した広域防災協定を掘り起こすことができ、8月10日に発災した線状降水帯による大雨災害で被災した地域からのボランティア要請に迅速に対応し、ひびき JC が地域から必要とされる団体への一歩に寄与することができたと確信していますが、ボランティア保険やボランティアに必要な備品などの準備ができていなかったことについては反省点であり、今後引き継ぐべき事項であると考えます。

4. 総評

本年度、地域開発委員会の委員長として1年間を通じ、青年会議所に入会して右も左もわからないまま活動を行ってきましたが委員会メンバーや上長に支えられながら地域の未来を見据えた様々な事業に取り組むことができました。地域の魅力を再発見し発信すること、そして地域の方々と共に学び、行動することの大切さを実感した1年でした。地域開発事業のどんぶりグランプリ feat. 遠賀町のお米夢れんげでは、他団体との共催という新たな挑戦を通じて、遠賀町の魅力を広くPRできたと確信しています。一方で、初めての委員長として準備や動員に課題を残したことは大きな反省点であり、今後の自分自身の成長の糧にしていきたいと感じています。また、防災事業の公開例会では、1市4町の防災協定の存在を再認識し、地域の方々と防災を「自分ごと」として捉えるきっかけをつくることができました。Fネットの平川様をはじめ多くの方々との新たなご縁をいただけたことは、今後のひびきJCにとって大きな財産となったと確信しています。さらに、なかま春祭りへの参画では、1万人規模の地域事業を通して多くの団体とのつながりを深めることができ「地域とともに歩むJC」としての存在意義を感じる機会となり私自身も祭りの司会者を全うしたことで自身の成長や感動も感じることができました。出向活動では、アカデミー委員会での学びを通じて多くの仲間との出会いがあり、JC運動の広がりを肌で感じることができました。一方で、拡大活動においては自分自身のやるべきことに追われてしまい拡大活動に積極的に参加できず、入会につなげることができなかったことが反省として残ります。本年度を振り返り、地域の皆さま、関係団体の方々、そして何より委員会メンバーや上長に支えられながら多くの挑戦をやり遂げられたことに深く感謝申し上げます。この一年の経験を糧に、来年のラストイヤーも地域の発展とJC運動のさらなる前進のために尽力してまいります。

月別事業内容及決算

(単位：
円)

月	事業内容	予 算	決 算	事業収入	摘 要
1月					
2月					
3月					
4月					
5月	5月度防災公 開例会	¥100,000	¥85,864	¥0	
6月					
7月					
8月					
9月					
10月	地域開発事業	¥250,000	¥224,053	¥0	
11月					
12月					
合計		¥350,000	¥309,917	¥0	
決算	事業予算 + 事業収入 - 決算 = 残金				
	¥350,000	¥0	¥309,917	¥40,083	
備考					

会員拡大委員会

1. 基本方針

1. 設置背景	組織の持続的な成長と影響力を強化するには、多様なバックグラウンドを持つ新たなメンバーを迎え入れることが重要であり、この取り組みにより、地域社会への貢献をさらに広げることが期待されます。
2. 設置目的	近年では、ひびき JC の会員数も減少傾向にあり、組織力を向上するため、LOM メンバーはもちろん、新入会員にも積極的にオブザーバー参加を促してもらい、今後のひびき JC の活動と会員数の増員につなげる必要があります。
3. 事業概要	1. 事業概要：新入会員の拡大と入会に関する事項
	より多くの新規会員の拡大につなげるために、LOM メンバーにもオブザーバーリスト等の作成に協力してもらうことで新規会員の増員が見込め、LOM の会員数が増えることにより LOM の活性化につながります。
	2. 事業概要：新入会員セミナーに関する事項
	新入会員が活動を理解し、積極的に参加できるようサポートするために、JC では使命を共有し、メンバーとしての役割を明確にすることで、リーダーシップを発揮しやすい環境が整います。
	3. 事業概要：会員拡大事業の開催に関する事項
	LOM 全体で拡大を行うために、会員拡大の重要性を認識してもらえる事業を行うことでメンバーの拡大意識につなげます。
	4. 事業概要：第一エリア合同例会（3月）に関する事項
	第一エリアの仲を深めるために、他 LOM の方と交流を深めて、その中で得た有益な情報を LOM へと持ち帰っていただくことで、LOM の活性化につながります。
	5. 事業概要：会員拡大戦略会議の開催に関する事項
	組織の成長を促進するために新規会員の獲得方法を検討し、会員の定着率を向上させ、既存会員の紹介制度や新入会員に対するコミュニケーションをよりとってもらうことで、既存会員の満足度向上につながり、組織全体の活性化が図れます。
6. 事業概要：出向に関する事項	
出向先での経験を積むために、率先して出向事業に参加してもらうことで、視野が広がり個人の成長と組織全体の発展に貢献する重要な機会の提供につながります。	
7. 事業概要：各種大会への参加に関する事項	
会員のスキル向上と組織間の連携強化につなげるために、各種大会に参加す	

	ることで、メンバーの意識向上とネットワークの拡大を図ります。
	8. 事業概要：その他会員拡大に関する事項
	迅速に対応します。
	9. 事業概要：新入会員のフォローアップ
	新入会員の参画意識を高めるために、LOM メンバー全体で新入会員をフォローアップし、気配りや思いやりを持ってコミュニケーションをとることで、退会者が減少します。
4. 委員会の姿	会員拡大を積極的に取り組んで行く中で、リーダーシップ能力やコミュニケーション能力、交渉スキル等が向上して行き、個人としてもチームとしても成長し、新たなチャレンジに向けてさらにモチベーションが高まっている姿になると確信します。

2. 委員会構成

委員長	佐伯 慎一君	福岡ブロック協議会アカデミー第2委員会	副委員長出向
副委員長	大塚 修平君		
委員	藤津 和也君		
委員	木村 雄馬君		
委員	上杉 拓海君		
委員	三原 悠吾君		
委員	田中 健士郎君		

(委員 50 音順)

3. 事業報告

事業別内容(方法・手段・評価・反省)

(1) 新入会員の拡大と入会に関する事項

(方法・手段)

より多くの新規会員の拡大につなげるために、LOM メンバーにもオブザーバーリスト等の作成に協力してもらうことで新規会員の増員が見込め、LOM の会員数が増えることにより LOM の活性化につながります。

(評価・反省)

オブザーバーリスト作成により候補者との接点が広がり、会員増加と LOM の活性化につながり、結果として拡大褒賞を受けることができたことは拡大委員会として良かったです。反省点としては、オブザーバーリストによる入会までの流れや入会後の新入会員へのフォロー体制の課題、入会申込書作成時に大量の紙を使わなければならないなどと言った問題点が課題として残っ

た。

(2) 新入会員セミナーに関する事項

(方法・手段)

新入会員が活動を理解し、積極的に参加できるようサポートするために、JC では使命を共有しメンバーとしての役割を明確にすることで、リーダーシップを発揮しやすい環境が整います。

(評価・反省)

新入会員セミナーをきっかけに数名の新入会員が例会や事業への参加意欲を高めるなどの成果を得ることができました。反省点として、新入会員セミナーでの新入会員に向けてのJCの活動内容、委員会説明の部分を創意工夫し、新入会員に伝わりやすく、理解しやすいよう工夫しておけば良かったと課題が残りました。

(3) 会員拡大事業の開催に関する事項

(方法・手段)

LOM 全体で拡大を行うために、会員拡大の重要性を認識してもらえる事業を行うことで、メンバーの拡大意識につなげます。

(評価・反省)

拡大活動を通じて、新入会員の獲得に対し一定の成果は得られた。特に、委員会単位での声かけや紹介活動が活発化し、会員同士の関係性の強化にもつながった点は大きい成果となった。今後の反省点として目標共有だけでなく、委員会ごとのオプザーバーリストの成果発表の場を設けることで、競い合いと称え合いの文化をつくり、LOM 全体に拡大魂を浸透させる必要があると考えます。

(4) 第一エリア合同例会（3月）に関する事項

(方法・手段)

第一エリアの仲を深めるために、他LOMの方と交流を深めて、その中で得た有益な情報をLOMへと持ち帰っていただくことで、LOMの活性化につながります。

(評価・反省)

第一エリアで他LOMとの交流を進め、情報共有や学びを得て新たな気づきを持ち帰り、LOMの活性化につながった。反省点としては、交流が一部の関わりにとどまり、全員が実感を得られる仕組みづくりが不十分だった。

(5) 会員拡大戦略会議の開催に関する事項

(方法・手段)

組織の成長を促進するために新規会員の獲得方法を検討し、会員の定着率を向上させ、既存会員の紹介制度や新入会員に対するコミュニケーションをよりとってもらうことで、既存会員の満

足度向上につながり、組織全体の活性化が図れます。

(評価・反省)

オブザーバー紹介を通じ関わりが広がり、拡大としての前向きな雰囲気が生まれたが、拡大の成果が一部に留まったため、今後は候補者情報の共有や声かけの習慣化を進め、全員参加の体制を整えることが反省として残った。

(6) 出向に関する事項

(方法・手段)

出向先での経験を積むために、率先して出向事業に参加してもらうことで、視野が広がり個人の成長と組織全体の発展に貢献する重要な機会の提供につなげます。

(評価・反省)

出向先で積極的に事業へ参加し、視野を広げ個人の成長につながった点は大きな成果だったが、一方で得た学びをLOM全体に共有・活用する仕組みが不十分で反省点としては、今後は報告の場を設け還元体制を強化する必要があると考えます。

(7) 各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

会員のスキル向上と組織間の連携強化につなげるために、各種大会に参加することで、メンバーの意識向上とネットワークの拡大を図ります。

(評価・反省)

大会参加で得た学びや刺激によりメンバーの意識は高まったが、次の活動へつなげる流れが不十分だったため今後の反省としては、参加報告を委員会や例会に反映し、学びを行動に移す仕組みを整える必要があるため、例会時、各種事業ごとに報告を行った方が良かったと反省点があった。

(8) その他会員拡大に関する事項

(方法・手段)

迅速な対応致します。

(評価・反省)

柔軟で迅速な対応により、状況変化にも前向きに行動できる環境を整えることができましたが、行動が短期的になりがちで継続的に成果を生み出す仕組みや全員が主体的に関われる体制の構築が反省点とし課題として残った。

(9) 新入会員のフォローアップ

(方法・手段)

新入会員の参画意識を高めるために、LOMメンバー全体で新入会員をフォローアップし、気配り

や思いやりを持ってコミュニケーションをとることで、退会者が減少します。

(評価・反省)

新入会員への気配りとフォローアップが信頼関係を深め、退会者の減少に結びついたが、フォローアップの機会が一部に偏ってしまい、全員が関われる環境づくりと継続的な関係構築が出来なかった事が反省として残った。

4. 総評

会員拡大や新入会員育成、アカデミー出向や大会への参加を通じて LOM 全体の活性化に一定の成果が出ました。新入会員フォローアップ体制により信頼関係が深まり、参加意識も向上しましたが、一部の取り組みは、新入会員全員には浸透せず、結果や仕組みづくりに課題が残りました。

月別事業内容及決算

(単位：
円)

月	事業内容	予 算	決 算	事業収入	摘 要
1月	拡大パンフレット	¥9,900	¥10,010	¥0	1
2月	2月度拡大例会～拡大魂に火を灯せ～	¥70,000	¥40,356	¥0	
3月	3月度第一エリア合同例会	¥0	¥0	¥0	
4月					
5月					
6月					
7月					
8月					
9月					
10月					
11月					
12月					
合計		¥79,900	¥50,366	¥0	/
決算	事業予算 + 事業収入 - 決算 = 残金				
	¥80,000	¥0	¥50,366	¥29,634	
備考					

例会委員会

1. 基本方針

1. 設置背景	近年、例会の重要性が感じられず参加率低下を引き起こし魅力ある人材への成長の機会が失われつつありますが、ひびき JC は入会歴 3 年未満の歴が浅いメンバーが主体になりつつある現状にあり、そのメンバーが成長できる環境作りが重要と考えます。
2. 設置目的	毎月の例会を通して JC 活動や運動に対しメンバー一人ひとりが常に向上心をもつとともに、魅力あるリーダーへと成長することが必要です。
3. 事業概要	1. 事業概要：毎月の例会の開催に関する事項
	地域に必要とされる JAYCEE になるために、新しい知識やスキルを学べる例会を行い、メンバーに対して成長の機会を提供することで、社業や地域社会の発展に寄与します。
	2. 事業概要：例会の出席率向上に関する事項
	例会の参加率を高めるために、LOM メンバーが社業にもつながる新しい知識やスキルを身につける例会を取り入れることで、LOM メンバーの参加意欲を高めていきます。
	3. 事業概要：出向に関する事項
	視野を広げる機会をより多くもってもらうために、委員会としての協力体制を強化することで、出向を促します。また、出向を推進するために、自ら出向し、知識やスキルを LOM にもち帰り委員会メンバーに伝えることで、出向するメリットを理解してもらいます。
	4. 事業概要：各種大会への参加に関する事項
	多くの LOM との交流を深めることや JC のスケールメリットを感じるために自ら率先して参加を表明することで、JC 活動や運動への意識を向上させるとともに各種大会への参加を促します。
	5. 事業概要：会員拡大に関する事項
LOM メンバー減少という現状の中、JC 活動が困難にならないために、今一度 JC の魅力を認識し、拡大委員会と連携を取り合うことで、精力的に会員拡大につなげます。	
6. 事業概要：その他例会に関する事項	
迅速に対応します。	
4. 委員会の姿	委員会メンバーが同じ方向性をもって事業に参画し、知識とスキルを得た結果、一人ひとりの資質向上につながり、地域から必要とされるリーダーへと成長し、明るい豊かな地域の創造につながると確信しています。

2. 委員会構成

委員長	中本 茂生 君	福岡ブロック協議会	アカデミー第2委員会	副委員長出向
副委員長	鐘ヶ江 将 君			
委員	浅附 拓也 君			
委員	北嶋 美穂 君			
委員	藺田 雅弘 君			
委員	松村 達也 君			
委員	山本 祥平 君			

(委員 50 音順)

3. 事業報告

事業別内容(方法・手段・評価・反省)

(1) 事業概要：毎月の例会の開催に関する事項

(方法・手段)

地域に必要とされる JAYCEE になるために、新しい知識やスキルを学べる例会を行い、メンバーに対して成長の機会を提供することで、社業や地域社会の発展に寄与します。

(評価・反省)

毎月の例会を通じて社業や JC 活動に役立つテーマを積極的に取り入れ、多くのメンバーが新しい知識やスキルを学ぶ機会を得ることができました。アンケートや参加者の声からは「実務に直結した学びがあった」「自社に持ち帰って活かせた」という肯定的な意見が数多く寄せられ、例会が成長の場として機能したことを確認できました。また、委員会メンバーが主体性を発揮し、それぞれの役割を果たしたことで、例会運営の質も向上しました。これにより、例会に対する意識も高まり、メンバー間の一体感や達成感を得ることができた点も大きな成果です。一方で、講演内容によって関心や理解に差が生じるといった課題もありました。

(2) 事業概要：例会の出席率向上に関する事項

(方法・手段)

例会の参加率を高めるために、LOM メンバーが社業にもつながる新しい知識やスキルを身につける例会を取り入れることで、LOM メンバーの参加意欲を高めていきます。

(評価・反省)

例会の出席率向上を重要課題として位置づけ、委員会全体で積極的な動員活動を行いました。特

に、例会前の声かけ、電話動員を徹底し、副委員長が率先して行動することで、メンバーへの参加意識を高めることができました。その結果、各例会で安定した出席率を維持できたほか、会場全体が一体感を持って取り組む雰囲気を作り出すことができました。また、社業に直結する学びやメンバーの資質向上を重視した企画を取り入れたことで、参加率向上につながった点は大きな成果です。一方で、当日キャンセルが多く発生したことは大きな課題として残りました。参加表明後のフォロー体制や出席確認の仕組みを強化する必要性を感じました。今後は、メンバー一人ひとりが例会の意義をより深く理解し、責任をもって参加できるような体制を整え、さらなる出席率向上を目指します。

(3) 事業概要：出向に関する事項

(方法・手段)

視野を広げる機会をより多くもってもらうために、委員会としての協力体制を強化することで、出向を促します。また、出向を推進するために、自ら出向し、知識やスキルを LOM にもち帰り委員会メンバーに伝えることで、出向するメリットを理解してもらいます。

(評価・反省)

委員長は出向を通じて各地で知識や経験を得ることができました。積極的に出向する姿勢を示すことで、委員会メンバーに対しても出向の意義を伝えることができ、JC 運動のスケールメリットを肌で感じる大きな成果となりました。特に、他 LOM との交流や広域事業の学びは、自身のリーダーとしての成長に直結し、例会委員会の運営にも還元できたと実感しています。一方で、委員長以外のメンバーが出向に参加できなかったことは課題として残りました。時間的・業務的な制約が要因となりましたが、委員長一人の参加に留まったため、出向の経験や学びを組織全体に浸透させるには限界がありました。

(4) 事業概要：各種大会への参加に関する事項

(方法・手段)

多くの LOM との交流を深めることや JC のスケールメリットを感じるために自ら率先して参加を表明することで、JC 活動や運動への意識を向上させるとともに各種大会への参加を促します。

(評価・反省)

委員長自ら率先して参加し、ひびき JC を代表する立場で積極的に学びと交流を深めることができました。JC のスケールメリットを強く実感し、その学びを委員会メンバーにフォーラム内容や写真での共有することができました。また、委員長が率先して参加する姿勢は、メンバーに対して「参加の価値」を示す良いモデルとなり、今後の意識向上にもつながったと考えます。一方で、参加が委員長中心となったため、組織全体として大会の魅力や学びを共有する機会が十分に広がらなかった点は課題です。委員会メンバーが分担して参加できるような動員体制を整え、大会で得られる経験をより多くのメンバーに浸透させていく必要があります。

(5) 事業概要：会員拡大に関する事項

(方法・手段)

LOM メンバー減少という現状の中、JC 活動が困難にならないために、今一度 JC の魅力を認識し、拡大委員会と連携を取り合うことで、精力的に会員拡大につなげます。

(評価・反省)

副委員長と共に積極的にオブザーバーアタックを実施し、多くのオブザーバーを例会へ招くことができました。例会を通じて JC 活動の魅力や学びの価値を伝えることで、入会を検討するきっかけをつくり、会員拡大に少しは協力できたと思います。特に、副委員長の行動力と連携体制が大きな原動力となり、例会委員会として拡大活動を推進できた点は高く評価できます。一方で、オブザーバーへのフォローアップ体制や、入会後のサポートをすることが委員会全体での今後の課題です。今後は、拡大委員会との情報連携をさらに密にし、継続的なフォローを行うことで、より安定した拡大活動へとつなげていく必要があります。

(6) その他例会に関する事項

(方法・手段)

迅速に対応します。

(評価・反省)

例会運営に委員会メンバーが協力し合い、会場設営・備品準備・グッズ管理など、細かな業務にも対応し、例会が滞りなく進行したことは委員会の大きな成果です。特に、委員長だけでなくメンバー全員が積極的に動いてくれたことで、一体感のある例会運営を実現することができました。一方で、備品や例会グッズの整理整頓が不十分な場面や、当日の役割分担が曖昧になるケースも見られたため、事前確認の徹底やチェックリストの運用など、管理体制の強化が必要だと感じました。今後は、委員会内での情報共有をさらに円滑にし、誰が見ても準備状況が分かる環境を整えることで、より安定した例会運営につなげていく必要があります。

4. 総評

例会委員会は理事長所信のタイトルである挑戦する人材育成に焦点をあて、メンバーに新しい知識やスキル、資質向上、メンバーの育成、JC の意義を再確認することを目的に、年間を通じて多様な例会を企画・運営してまいりました。講師例会、対談形式、メンバー主体のワークなど、学びと感動の両立を目指し、一つひとつの例会に全力で取り組むことができました。その結果、内容面・出席率ともに高く、多くのメンバーからお褒めの声をいただけたことは、大きな成果であり、何よりの喜びです。また、副委員長をはじめ委員会メンバー全員が、最後まで責任感をもって事業に取り組み、委員会としての団結力を感じる一年となりました。特に副委員長は私の献身的な支えとなり、どんな時でも駆けつけてくれ一緒に活動できたからこそやりきれました。委員会メンバー一人ひとりの協力があったからこそ、例会委員会として成果を残すことができた

と心から感謝しています。今年一年、筆頭委員長という重責もお預かりしました。各委員長との信頼関係を築きながら委員長グループをまとめ上げ、最後までその役割を全うすることができました。この経験を通じて、仲間を助け合いながら一つの方向に向かうリーダーシップの大切さを改めて実感しました。私自身、委員長として一年間走り抜く中で、仲間とともに挑戦し、喜びを分かち合えたことが何よりの財産です。例会はメンバーの成長の場であることを改めて実感しました。この経験を胸に、これからも JC 活動で得た学びを社業や地域に活かしてまいります。

月別事業内容及決算

(単位：
円)

月	事業内容	予 算	決 算	事業収入	摘 要
1月					
2月					
3月					
4月	4 月度例会	¥70,000	¥69,550	¥0	
5月					
6月					
7月	7 月度例会	¥30,000	¥24,500	¥0	
8月					
9月					
10月	10 月度例会	¥30,000	¥27,306	¥0	
11月	11 月度例会	¥50,000	¥48,760	¥0	
12月					
合計		¥180,000	¥170,116	¥0	
決算	事業予算 + 事業収入 - 決算 = 残金				
	¥180,000	¥0	¥170,116	¥9,884	
備考					